



尾谷浩史氏

していただくことが必要だと思えます。

質問をいただきました。フロアから

例えば評価をする際に、メールで相談いただいたり、デジカメで動画を撮影していただいたものを、コメントをつけて返すこともしています。そういった対応をして、嚥下障害の方をフォローしています。

室谷

歯科訪問診療をお願いしたいときはどこに聞けばよいのでしょうか。

小林

県の歯科医師会が斡旋を積極的に行っています。富山県では、歯科訪問診療を行う歯科診療所が二〇〇件以上ありますので、まずは県の歯科医師会に気軽に言っていたらいいと思います。

室谷

フロアからのご発言、ご

摂食嚥下障害の機能評価を依頼していただきたい

在宅において私たちが関わる時間は短く、なかなか嚥下障害への対応を準備することは機能的にはできないということがあります。

なので、関わるすべての職種の方に見つけていただいで、私たちSTに摂食嚥下の機能評価を依頼するなどして調整をし、情報を共有

室谷 最後に一言ずつお願いします。

在宅でもSTが調整役として活躍したい

亀谷

最近ではSTという職種がクローズアップされています。在宅においても、うまく調整役として活躍していかなければいけないと

まとめ・追加発言から

1mのデータもあります。義歯を入れることは、全身状態、体の平衡性を保たせるために重要です。義歯は必ず入れて、奥歯を噛める状態をつくっておくことが体の平衡性、延いては歩行安定性につながります。

ことだと思えます。歯がない方が機能回復の前に歯を入れることで、審美的回復につながると思います。自分の顔を鏡で見て、人前でしゃべって、笑って、そして食べるという、人間にとって一番大切なことを取り戻せるようになります。審美的な要件を回復することも心のリハビリだと思えます。

えてもらえれば、対象者は高齢者が多く、認知症の方には何をやっていいのかわからないことが多いですが、やるべきことを一緒に発見できるように専門職になっていきたいと思います。

ていきたいと思います。リハビリは一人でするものではなく、関わる職種さんすべての人で行っていくものだと思いますので、連携を大切にしながら頑張っていきたいと思います。

高齢者の三分の一の方は一年に一回は転倒されるといわれています。そのうちの六割の方は大腿骨などの骨折を伴うというデータもあります。そういったことをご家族にも理解していただければ、義歯を入れることの重要性を分かっていただけではないでしょうか。

また、「歯茎でも食べることができないからいんじやないか」という意見もありますが、奥歯の噛み合わせが転倒防止につながるということもわかってきていますので、義歯の必要性について周知が進んできていると思います。

私はいま、リハビリの言葉の意味をもう一度考えてもらうことが目標でした。いま堀尾さんが言われたように、生きることを支援することがリハビリだと思えます。生きるとは何なのかというところ、その人が発する「欲求」だと思えます。欲求にも、おながすいた、眠たい、という生理的欲求から、こうなりたいという自己実現における欲求に押し上げていくことがリハビリなのではないかと考えています。みなさんと一緒にリハビリについて考える時間をもたることが、すごく貴重ななと思えます。

私は最初モチベーションの話をしたのですが、その人が何をしたいのか見つけることが大切で、何をしたいのか見つけることができる人は、自分の存在を認めている人だと思えます。しかし、病気やケガで自分の機能が失われ、排泄をしたり食事をしたりといった生きるために必要なことから人の手を借りなければいけない人は、自分の存在を否定してしまうことがあります。

堀尾

在宅の医療を支える立場からみると、ショートステイを経て体力が落ちて帰ってくる方が多い。そのときに専門職の介入があってもいいと思えますし、在宅で重度の障害の方がショートステイやレスパイトをなかなか受け入れてもらえないという現状もあります。

訪問リハビリに関わるスタッフとして、自分が関わっている利用者さんが少しでも笑顔が増え、また、他の職種からも「リハビリが入ったことによつて利用者さんが変わったよね」と言ってもらえるようなリハビリを今後も一生懸命頑張

私はいま、リハビリの言葉の意味をもう一度考えてもらうことが目標でした。いま堀尾さんが言われたように、生きることを支援することがリハビリだと思えます。生きるとは何なのかというところ、その人が発する「欲求」だと思えます。欲求にも、おながすいた、眠たい、という生理的欲求から、こうなりたいという自己実現における欲求に押し上げていくことがリハビリなのではないかと考えています。

私は最初モチベーションの話をしたのですが、その人が何をしたいのか見つけることが大切で、何をしたいのか見つけることができる人は、自分の存在を認めている人だと思えます。しかし、病気やケガで自分の機能が失われ、排泄をしたり食事をしたりといった生きるために必要なことから人の手を借りなければいけない人は、自分の存在を否定してしまうことがあります。

金岡

私は今日、リハビリの言葉の意味をもう一度考えてもらうことが目標でした。いま堀尾さんが言われたように、生きることを支援することがリハビリだと思えます。生きるとは何なのかというところ、その人が発する「欲求」だと思えます。欲求にも、おながすいた、眠たい、という生理的欲求から、こうなりたいという自己実現における欲求に押し上げていくことがリハビリなのではないかと考えています。

村井

私は最初にモチベーションの話をしたのですが、その人が何をしたいのか見つけることが大切で、何をしたいのか見つけることができる人は、自分の存在を認めている人だと思えます。しかし、病気やケガで自分の機能が失われ、排泄をしたり食事をしたりといった生きるために必要なことから人の手を借りなければいけない人は、自分の存在を否定してしまうことがあります。

参加者アンケートから

末尾()内の数字は他にあった同様の意見の数です

●それぞれのシンポジストの方の立場から在宅での取り組み状況と課題をお聞きし、リハビリとは何か在宅医療に求められるものは何かを考えさせられました。利用者を支えるリハビリをみんなで考える機会になったと思います。(6)

●在宅療養を支えるリハビリについて、リハビリマインドの共有の意味がよく理解できました。その人がその人らしく生活していくために段取りをしなから支援していくこと、家族を含めた支援を考えていくことが必要だと思えます。

●口腔ケアの大切さを知りました。「食べる」ことは生きることにつながっているため、もっと嚥下訓練が手近に持続していけたらいいなと思えます。(2)

●在宅でのリハビリのモチベーションの維持や家族とのかわり、アプローチすべき目標をみつけ、その人がより楽しく生活できるかわりが必要だと考えていくことが大切だと思いつきました。(2)

●シンポジウムの中にあつた「顔を合わせた上での対話」というのが、まさにこの場に現出しているんだなという感慨を得る一方、これを日常業務の中で実現していくことについての壁の高さを感じた。

●自宅での生活方法、動作やサービ利用状況など形にとらわれがちであったかもしれない。生活者自身の希望や思い、願ひも目を向けなければと思つた。豊かな心でかわりを持ち、自分自身をも環境にしてみたい、利用者様の「くしたい」につなげていきたい。支援したい。

アの一面とケアの一面があると思えますが、リハビリを行う課程、その人にとっての寄り添うことがスピリチュアルペインのケアになるのかなと思つています。

かかりつけ医はケアマネと顔が見える関係作りを

矢野 リハビリが必要な方のケアプランにリハビリを入れることができるかどうかは、私の長年の課題であり、スピリチュアルペインのケアの方法について学んでいるところですが、リハビリというのはキュー

室谷 こうやって生きていくというその人の気持ちを引き出せるよう、ぜひその人を支えていけたらと思つています。みなさんと連携して、患者さん利用者さんを支えていけたらと思つています。(了)

室谷 こうやって生きていくというその人の気持ちを引き出せるよう、ぜひその人を支えていけたらと思つています。みなさんと連携して、患者さん利用者さんを支えていけたらと思つています。(了)

室谷 こうやって生きていくというその人の気持ちを引き出せるよう、ぜひその人を支えていけたらと思つています。みなさんと連携して、患者さん利用者さんを支えていけたらと思つています。(了)

室谷 こうやって生きていくというその人の気持ちを引き出せるよう、ぜひその人を支えていけたらと思つています。みなさんと連携して、患者さん利用者さんを支えていけたらと思つています。(了)